

# 令和8年度 大森小学校 研究・研修

## 1. 研究主題

学習の楽しさを知り、自ら学ぶ児童の育成

～確かな学力の定着をめざした授業づくり～

### 主題設定の理由

#### (1) 大森小の目指す児童の姿から

大森小学校の目指す児童の姿は、「学習の楽しさを知り、自ら学ぶ子」である。児童自身が、学習の楽しさを知ることは、「分かった」「できるようになった」と実感できることから始まると考える。そのためには、基礎基本の学力の定着と、児童が意欲をもって学習活動をするための授業改善をし魅力のある授業を展開する必要がある。確かな学力を育むことで、自ら学ぶ児童が育成できるのではないかと考え、主題を設定した。

#### (2) 本校の児童の実態

本校は、印西市の北部に位置し、田園と昔からの商店や木下街道に面した歴史がある地域である。全校児童171名の学校である。児童は、明るく素直な児童が多い。単学級であるため、縦割り活動などの異学年での活動を充実させており、やさしさが育まれている。

学力調査の結果から、国語科・算数で学習への意欲は高いが、「知識・技能」「思考・判断・表現」において、全国平均との差が顕著に見られた。そこで、全ての学習活動の基盤となる言語能力を高め、学習を進めるために必要な知識や技能を身に付けることで、基礎学力の定着をはかりたいと考えた。

## 2. 研究の目標

確かな学力の定着を目指した授業づくりを通して、学習の楽しさを知り、自ら学ぶ児童を育てる指導の方法を研究する。

## 3. 研究仮説

### 仮説1 ～学習の楽しさを知る手立てとして～

基礎的・基本的な知識や技能の定着をはかることで、児童は学習が分かる楽しさを感じるができるだろう。

手立て1 読む力を上げるために、言語活動を取り入れる。

- ・文章を読んで考えたことを発表し合う。
- ・書いた物を読み合い、感想や意見を伝え合う。
- ・全教科で資料（教科書）から必要な情報を読み取る。
- ・語彙を増やすために言葉集め、辞書の活用をする。
- ・読書活動の充実

手立て2 学習を進めるために必要な知識・技能を身に付ける。

- ・学習規律を身に付けさせる。  
話の聞き方・学習用具の準備・挨拶・正しい姿勢・発表の仕方  
話し合いの仕方（ペア・グループ） ・下書き  
教室や机、椅子の整理整頓
- ・ノートのまとめ方やICT器機の使い方を指導する。
- ・授業の導入時などに既習事項を確認する。
- ・終末に反復練習や振り返りの時間をとり、習得した知識を定着させる。

## 仮説2 ～児童が自ら学ぶための手立てとして～

魅力ある授業作りをすることによって、児童が自ら進んで学習を進めることができるだろう。

手立て3 授業改善をし、魅力のある授業作りをする。

- ・主体的な学び、学ぶ喜びの生まれる問題解決型の授業実践  
知的好奇心を喚起する教材、教具の工夫、単元開発・導入の工夫  
学び方を選べる工夫・板書計画 等
- ・ICTや具体物（体験活動）を取り入れた授業実践  
ICT活用・体験学習・地域人材、外部人材の活用を工夫する。（素材を図に表すなどイメージさせる。）
- ・考えを交流する話し合い活動の充実  
必要性のあるペアやグループでの話し合い

（研究における定義づけ）

- 「学習の楽しさ」とは、「学習活動の中で、できた達成感や分かる喜びなど学びの手応えを感じること」とする。
- 「自ら学ぶ児童」とは、「課題解決の方法を選択したり、活動を振り返って進歩の状況を意識したりし、進んで学習しようとする児童」とする。
- 「確かな学力の定着」とは、「基礎的・基本的な知識・技能の習得と、それを活用して主体的に学習に取り組む態度を養うこと」とする。
- 「読む力」とは、「話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、情報同士の関係を捉えたりして理解すること」とする。

### 3. 検証計画

観点	視点	方法
知識・技能	・基礎学力の向上 ・既習事項の理解 ・自力解決時の行動 ・練習問題でのチェック	テスト テスト ノート・ICT ノート・ICT
思考力・判断力・表現力	・表現方法の工夫 ・話し合いへの参加	ノート・ICT 授業観察
学びに向かう力・人間性	・アンケート（児童） ・学習への関心・意欲 ・UDの視点を生かした授業	児童の意識調査 ノートへの感想

### 4. 研究の内容と方法

#### (1) 理論研究

- 先行文献や実践校の資料を活用し、学力向上について研究を行う。

#### (2) 実践研究

- 児童のつまずきを想定して、授業計画を立てる。（実態把握）
- 児童に学習習慣が身につくよう実践する。（授業と家庭学習との両輪）
- 授業改善を図るため、問題提示や話し合いの仕方などについて工夫する。
- ユニバーサルデザインの視点を生かして授業実践を行う。
- 言語環境を整える。（教師の言葉、教室の環境）

## 5. 目指す児童の姿

- できた達成感やわかる喜びなどの学びの手応えを感じ取ることで、学ぶ楽しさを知る児童（学びに向かう力・人間性）
- 基本的な知識や技能を使って、主体的に学習に取り組もうとする児童（知識や技能、思考力・判断力・表現力）

## 6. 研究組織

